

就学前施設における、幼児の感性を育むクラシック音楽鑑賞

田中智穂

本稿では、日常的にクラシック音楽の鑑賞を行う就学前施設を対象にアンケート調査を行い、音楽鑑賞の有用性と、幼児期の感性を育む音楽鑑賞のあり方を考察した。その結果、日常的な音楽鑑賞は幼児の感受する力を育て、表現する力の要素を育むことがわかった。また、保育者の音楽的感性にも働きかけ、保育者の知識や表現力を伸ばすきっかけにもなることがわかった。更に、鑑賞曲目の選曲と聴かせ方に関して改善できる点を見つけた。

キーワード：幼児、感性、就学前施設、音楽鑑賞、クラシック音楽

In this paper, we conducted a questionnaire survey of pre-school facilities that routinely provide classical music appreciation, and examined the usefulness of music appreciation and how music appreciation can foster Kansei in young children. The results showed that daily music appreciation nurtures young children's ability to perceive and express themselves. It was also found that the appreciation of music can work on the musical sensibility of preschool teachers and provide opportunities for them to develop their knowledge and expressive abilities. In addition, we found points that can be improved in terms of the selection of music for appreciation and how to listen to it.

Key words : Young Children, Kansei, Preschool Facilities, Music appreciation, Classical music

I. はじめに

1. 幼児の音楽鑑賞の必要性

これまで小学校の音楽鑑賞教育については様々な研究が行われ、子どもたちが音楽に興味や関心を持てるような教材や授業の進め方が日々模索されている。小学校学習指導要領での音楽科の内容は「表現」と「鑑賞」の2領域に別れ、「鑑賞」はクラシック音楽の楽曲を中心に行われてきた。小学1、2年生の「鑑賞」におけるねらいは、「鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだし、曲全体を味わって聴くこと」、「曲想と音楽の構造との関わりについて気づくこと」¹⁾であり、音楽の世界に入り込んで自分なりの思いを持って聴くことと、客観的に音楽を捉えることが求められる。

一方、幼稚園や保育園、こども園（以下、就学前施設とする。）での音楽鑑賞の実施は自由であり、

各園の考え方に任されているところが大きい。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領では共通して、音楽に関する内容は、感性と表現に関する領域「表現」として扱われ、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。」²⁾ということが掲げられている。表現領域のねらいや内容から、幼児の表現活動には、生活の中にあるものや遊びの中での表現が重視されていることがわかる。鑑賞の観点から言えば、音楽を聴く以前に、身近な生活や自然の「音」に耳をすませることが求められると言えるであろう。そうすることで幼児は「気づき」の体験をし、面白さや不思議さなどを感じて楽しむ。この経験を繰り返し、気づいたことや楽しいと感じたことを友達や保育者と共有し共感することで、更に豊かな感性が養われていくのである。³⁾児童と幼児では発達に差があるものの、小学校での

「鑑賞」と、就学前施設での「耳をすます」ことの差は大きい。自然の音と音楽には繋がりはあるものの、自然の音と、人間が意図して作り上げた音楽（芸術作品）では大きな違いがあり、芸術作品には向き合っていく姿勢が必要である。芸術作品に向き合う時に必要なのは、人それぞれの「感性」であり、幼児期は感性が育まれる上で大変重要な時期である。進藤（2010）は、芸術に内包される「創造性」や「個性」は、子どもの中から溢れ出てくるものであり、その成長を見守るのが教育の本質であるからこそ、芸術と教育は不可分の一体となって子供の成長に関わってくる⁴⁾、と述べている。作曲家の感性そのものである音楽に幼児の心が反応することにより、音楽的な感性が育まれるだけでなく、人格形成など精神的な成長に関わってくるのだ。以上のことから、幼児期には発達に合った音楽鑑賞が必要であることが考えられる。

2. 問題と目的

就学前施設での鑑賞活動として、演奏家を招いて生演奏を聴くアウトリーチコンサートと、音楽鑑賞の時間をとって園児らにCDなどのクラシック音楽を聴かせることがあげられる。これらの経験は幼児の音楽的な感性を育むとともに、小学校以降の鑑賞に繋がる環境を与えていることになるだろう。インターネットで調べると、内容は様々であるが、アウトリーチコンサートはさかんに行われている。幼児期に生のクラシック音楽のコンサートを体験することに関して、戸川（2013）は、プロの演奏家が「未就学児入場不可」のコンサートにおいて提供するようなクラシック音楽プログラムがどの世代においても有用であるということ、マタニティーコンサート、親子コンサート、未就学児入場可のクラシックコンサートという、3つのスタイルのコンサートの実施により証明した。そして、「子ども向け」のプログラムでなくとも、クラシック音楽を生で聴くことにより、子どもが音楽を感じたままに体で表現をし、興味を持って集中して聴くことができるといった効果があったことを報告している。⁵⁾ 五感で楽しめる生演奏との出会いは、幼児の心に鮮烈な印象を与えるに違いない。

では、演奏者の姿を伴わない音楽鑑賞による幼児への影響はどのようなものだろうか。複数の先行研究では、就学前の子どもたちが音楽の感情（楽しさ、悲しさなど）を理解していることを、顔表情尺度を用いて選択させる方法などで明らかにしている。⁶⁾ しかしインターネットや聞き取りで調べる限りでは、日常的にクラシック音楽鑑賞の時間を取っている就学前施設は多くない。生演奏を超える感動はないにしても、日常的な鑑賞は、幼児に様々な気づきや楽しさを与え、その経験の蓄積が幼児の感性に働きかけ表現の幅を広げるだろう。また、アウトリーチコンサートを年に何回も実施することは難しく、オーディオ機器による鑑賞なら時間さえあればどんな園でも始めやすい。本論文は、日常的にクラシック音楽の鑑賞の時間をとっている就学前施設へのアンケート調査から現状を把握し、日常的な音楽鑑賞の有用性と、幼児の感性を育むクラシック音楽の鑑賞のあり方を探ることを目的とする。

3. 幼児期の音楽鑑賞に求められること

久保田（2019）は、「鑑賞」の意味について、その漢字から、「芸術作品などをよく吟味して味わう」ものだと述べている。また、「鑑賞」に相当する英語 *appreciation*（名詞）、*appreciate*（動詞）がラテン語の *appretium*（値打ちのあるもの）に由来していることから、何らかの曲を鑑賞する場合、すでにそれに価値があるものであることが前提になっていると述べている。⁷⁾ 西島（2010）は著書の中で、「鑑賞」の捉え方について、①対象を芸術として判断することも含む関わり方である「音楽美学的に正しい聴取」、②「芸術」であると予め判断された対象を理解し味わう、③ *listening* や *enjoy* などの言葉にも置き換えられる、対象を芸術には限らない楽しみ方、の3種としている。さらに、*appreciate* が芸術だけを対象とする語ではないことから、②「芸術」であると予め判断された対象を理解し味わう鑑賞は、日本独自のものであると述べている。⁸⁾ 小学校以降の鑑賞教育はこれであると考えられる。

一方、幼児がクラシック音楽を聴くときにはこのような「鑑賞」は当てはまらず、より自由なク

ラシック音楽の聴き方ができるはずである。本稿では幼児の感性を育むことを掲げているが、感性を育むことについて、鈴木(2009)は、「感受する力」だけでなく「表現する力」を伸ばすことが必要であるとし⁹⁾、赤木(2010)は、感性は、受動性と能動性を兼ね備えた力で感受・感情・情動を耕すことにより育まれる¹⁰⁾、述べている。本稿でも感性が「感受」と「表現」(受動性と能動性)の力であることを念頭に置くが、この姿勢は表現領域の「ねらい」にも見ることができる。

そこで、幼児の音楽鑑賞の目的を、表現領域の「ねらい」の項目を参考に導き出すと、鑑賞によって、「1. いろいろなもの(音楽)の美しさに対する豊かな感性をもつ」(感受)、「2. 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ」(表現)、「3. 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ」(表現)¹¹⁾、ことが求められると言えるだろう。幼児期のクラシック音楽鑑賞は、鑑賞活動としては一般的な「音楽の美しさを感じる」ことに加え、楽しく、生活とも関わっていることが望ましい。さらに感性を育むという点では、音楽鑑賞の経験によって、「表現したい」という意欲を持つよう導くものであることが求められると言えるだろう。

Ⅱ. 就学前施設への、クラシック音楽鑑賞に関する調査

1. 調査概要

2021年6月、日常的にクラシック音楽鑑賞を実施している全国14園にクラシック音楽鑑賞に関するアンケートを依頼した。そのうち13園には返信用封筒を同封したアンケートを郵送し、1園は直接アンケートを持参し回答を依頼した。14園のうち9園(保育園3園、幼稚園3園、幼稚園型認定こども園3園)から回答を得た。回答のあった園をそれぞれA園、B園、C園、D園、E園、F園、G園、H園、I園とする。質問項目は1. 音楽鑑賞を実施する時間帯、2. 鑑賞曲目と作曲家、3. 音楽鑑賞をする目的、4. 選曲の際に考えること、5. 鑑賞中の幼児の様子、6. 鑑賞中の保育者の様子、7. 鑑賞後の幼児の様子、8. 園児に鑑賞曲の説明をするか。説明する場合どの程度するか、9. 鑑賞の時間をとっ

てよかったこと、10. 音楽鑑賞に関する悩み、改善したい点、11. アウトリーチコンサートを行っているか、である。設問1、2、8～11は記述式で、3～7は選択式である。倫理的配慮として、回答の内容については本研究でのみ利用し、それ以外の目的で利用することは一切ないことを伝えた。

2. 結果と考察

1) 音楽鑑賞を実施する時間帯

全ての園が9時～10時台の朝の時間帯に鑑賞を行っており、登園後の自由遊びと保育時間の間(朝の会)に行う園が多いことがわかった。F園のみ朝と帰り(14時前)の2回行っている(図1)。E園は週1回、D園は週4日、他の園は平日に毎日鑑賞を行っている。鑑賞曲を流す時間は1分半～10分以内である(図2)。アンケートの記述から、時間内で選曲する園と、作品が長い場合はフェードアウトさせる園があることがわかった。

2) 鑑賞曲目と作曲家

2020年4月から2021年6月までの鑑賞曲と作曲家を月ごとに記述してもらった。G園とI園は各クラス担任がそれぞれ選曲して聴かせているということで、曲目の記述は省略されていた。A、B、C、D、E、F、H園の月ごとの鑑賞曲は表1に記した。

各園、偏りはあるものの、バロックから近現代まで幅広い時代から選曲がされていた。モーツァルトの作品に限定しているE園以外は、どの園もロマン派の作品を最も多く選曲していた(図3)。また、作曲家別鑑賞曲数として上位13名の作曲家と内訳を図4に示した。E園の影響でモーツァルトが突出しているが、チャイコフスキー、ショパン、サン＝サーンスの作品は7園中5園が選曲しており、人気が高いことがわかった。長調の曲が多く選ばれており(図5)、楽しさ、穏やかさ、軽快さ、華やかさなどを感じさせる曲調の作品が多く選ばれていた。どの園も一日のはじめや終わりに聞かせることから、気持ちよく明るくスタートできる(落ち着いて1日を終える)曲を選んでいるように思われる。短調の曲目はモーツァルトの「トルコ行進曲」のように、暗さより軽快さの印象が強い曲が選曲されていたが、D園では短調の物悲しい

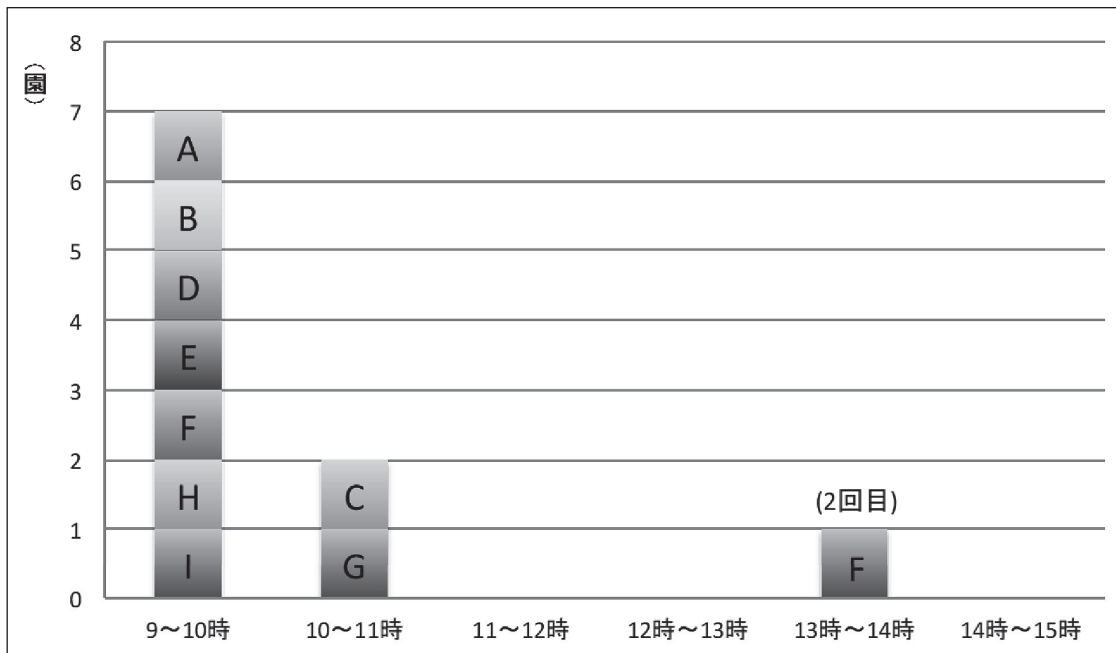


図1 音楽鑑賞する時間帯

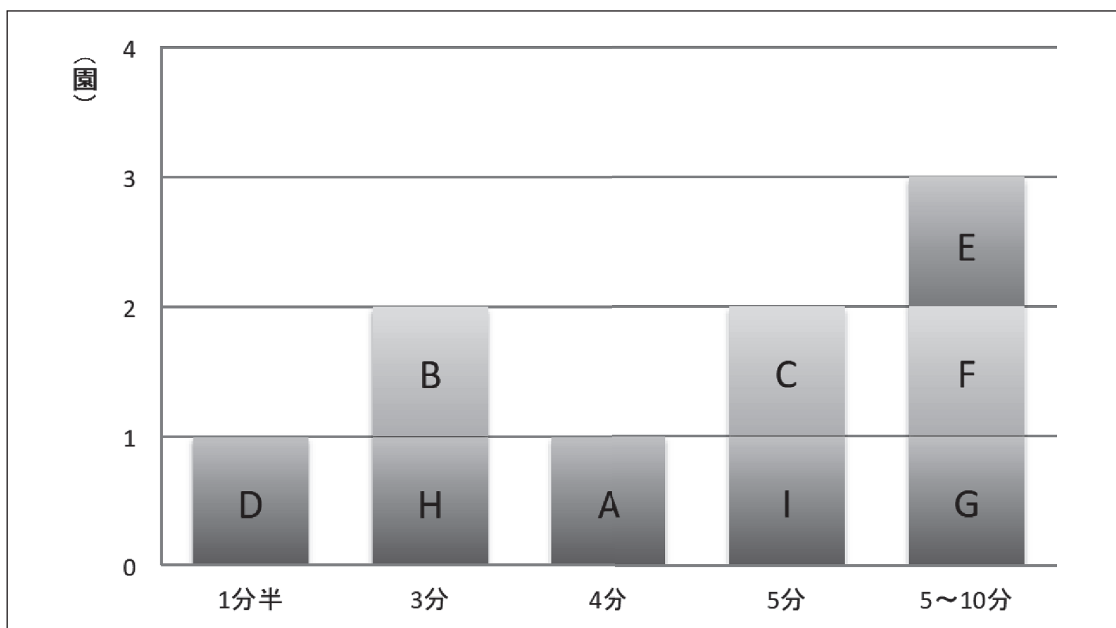


図2 鑑賞曲を流す時間

表1 各園の鑑賞曲 (2020年4月～2021年6月)

月	園	曲目 (作曲者)
(2020) 4月	A	「四季」より春 (ヴィヴァルディ) かわいいかくれんぼ (中田喜直)
	B	なし
	C	ミッキーマウスマーチ (J.ドット 昨年度の鼓笛発表曲) 花は咲く (菅野よう子)
	D	月の光 (ドビュッシー)
	E	年長:きらきら星変奏曲 (全てモーツァルト) 年中:フルートとハーブのための協奏曲 年少:音楽の冗談 K.522 第1楽章
	F	なし
	H	歌う小鳥 (バルロン)
	5月	A
B		美しきロスマリン (クライスラー) クラリネットポルカ (ポーランド民謡) ことりのうた (芥川也寸志) 歌の翼に (メンデルスゾーン)
C		「四季」より春 (ヴィヴァルディ) 愛の挨拶 (エルガー)
D		美しく青きドナウ (ヨハンシュトラウスⅡ)
E		なし (休園)
F		口笛吹きと犬 (アーサー・プライアー)
H		ガヴォット (ゴセック)
6月		A
	B	金平糖の精の踊り (チャイコフスキー) ワルツ (ブラームス) シャボン玉 (中山晋平) カエルの歌 (ドイツ民謡)
	C	シンコペーテッドクロック (アンダーソン) 雨だれ (ショパン)
	D	「マドンナの宝石」間奏曲 (ヴォルク・フェラーリ)
	E	年長:幻想曲 短調 年中:歌劇「フィガロの結婚」序曲 年少:ピアノソナタ KV.545 第1楽章
	F	水の戯れ (ラヴェル)
	H	ノクターン 第2番 (ショパン)
	7月	A
B		おもちゃの兵隊 (イエッセル) 子犬のワルツ (ショパン) 水族館 (サン＝サーンス) きらきら星 (フランス民謡)
C		花のワルツ (チャイコフスキー) 「パールギュント」より「朝」(グリーグ)
D		トロイメライ (シューマン)
E		年長:ヴァイオリンソナタ K.304 第1楽章 年中:歌劇「魔笛」より「なんと美しい絵姿」 年長:きらきら星変奏曲
F		きらきら星変奏曲 (モーツァルト)
H		亜麻色の髪の乙女 (ドビュッシー)
8月		A
	B	7月と同じ
	C	ユーモレスク (ドヴォルザーク)
	D	スケーターズワルツ (ワルトトイフェル)
	E	年長:歌劇「魔笛」より「なんと美しい絵姿」 年中:ピアノソナタ KV.310 第1楽章 年少:トルコ行進曲
	F	王宮の花火の音楽 (ヘンデル)
	H	歌の翼に (メンデルスゾーン)
	9月	A
B		山の音楽家 (ドイツ民謡)
C		ノクターン (ショパン) 月の光 (ドビュッシー)
D		嘆きのセレナーデ (トセリ)
E		年長:歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」 年中:ヴァイオリンソナタ K304 より 年少:歌劇「魔笛」序曲 より「女も15になれば」 第1楽章
F		交響曲第6番「田園」より第3楽章 (ベートーヴェン)
H		踊る人形 (ボルディーニ)

就学前施設における、幼児の感性を育むクラシック音楽鑑賞

10月	A	愛の喜び (クライスラー) 不思議なポケット (渡辺茂)		
	B	ユーモレスク (ドヴォルザーク) エリーゼのために (ベートーヴェン) かわいいかくれんぼ (中田喜直) もみじ (岡野貞一)		
	C	きらきら星変奏曲 (モーツァルト) 喜びの歌 (ベートーヴェン) 展覧会の絵 (ムソグルスキー)		
	D	「椿姫」第1幕の前奏曲 (ヴェルディ)		
	E	年長: ピアノソナタ KV.310 第1楽章	年中: 幻想曲 ハ短調	年少: 歌劇「魔笛」より「パ・パ・パバゲーノ
	F	愛の喜び (クライスラー)		
	G	エリーゼのために (ベートーヴェン)		
	H	エリーゼのために (ベートーヴェン)		
11月	A	交響曲第5番より第3楽章 (チャイコフスキー) ドコノキノコ (ザッハトルテ)		
	B	タンゴ (アルベニス) どんぐりころころ (梁田貞)		
	C	白鳥 (サン＝サーンス 白鳥の飛来に合わせて)		
	D	金と銀 (レハール)		
	E	年長: 幻想曲 ハ短調	年中: 歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」	年少: 歌劇「魔笛」より「おいらは鳥より「女も15になれば」
	F	ポロネーズ第3番 (ショパン)		
	G	トロイカ (チャイコフスキー)		
	H	トロイカ (チャイコフスキー)		
12月	A	「くるみ割り人形」小序曲 (チャイコフスキー) 小さな世界 (シャーマン)		
	B	シンコペーテッドクロック (アンダーソン) ゆき (作曲者不詳) 森のくまさん (アメリカ民謡) お正月 (滝廉太郎)		
	C	カノン (パッヘルベル)		
	D	ユーモレスク (ドヴォルザーク)		
	E	年長: ヴァイオリンソナタ K.304 第1楽章	年中: フルートとハーブのための協奏曲	年少: 3つのドイツ舞曲 K.605 第3番「そり遊び」
	F	「くるみ割り人形」より小序曲 (チャイコフスキー)		
	G	お父様をお願い (ブッチャーニ)		
	H	お父様をお願い (ブッチャーニ)		
(2021) 1月	A	華麗なる大円舞曲 (ショパン) ドレミの歌 (ロジャース)		
	B	歌の翼に (メンデルズゾーン)		
	C	トルコ行進曲 (モーツァルト)		
	D	セレナーデ (ハイドゥン)		
	E	年長: 歌劇「魔笛」より「なんと美しい絵姿」	年中: 歌劇「フィガロの結婚」序曲	年少: ピアノ協奏曲第21番より第1楽章
	F	「四季」より「冬」第2楽章 (ヴィヴァルディ)		
	G	メヌエット (ポッケーリニ)		
	H	メヌエット (ポッケーリニ)		
2月	A	弦楽セレナーデより第2楽章「ワルツ」(チャイコフスキー) 鬼のパンツ (ルイーゼ・デンツァ)		
	B	ノクターン (ショパン) ラルゴ (ヘンデル) エリーゼのために (ベートーヴェン) どんな色が好き (坂田おさむ)		
	C	春の歌 (メンデルズゾーン) ミッキーマウスマーチ (J. ドット) シングシングシング (ジャズ)		
	D	ポルカ「観光列車」(ヨハンシュトラウスⅡ)		
	E	年長: 音楽の冗談 K.522 第1楽章	年中: ピアノソナタ KV.545 より第1楽章	年少: アイネ・クライネ・ナハトムジーク
	F	白鳥 (サン＝サーンス)		
	G	楽興の時 第3番 (シューベルト)		
	H	楽興の時 第3番 (シューベルト)		
3月	A	主よ人の望みの喜びよ (バッハ) 勇気100% (馬飼野康二)		
	B	カノン (パッヘルベル) 思い出のアルバム (本多鉄磨)		
	C	2月と同じ 春の歌 (メンデルズゾーン) ミッキーマウスマーチ (J. ドット) シングシングシング (ジャズ)		
	D	ソルヴェイグの歌 (グリーグ)		
	E	年長: ピアノソナタ KV.545 第1楽章	年中: 音楽の冗談 K.522 第1楽章	年少: きらきら星変奏曲
	F	メヌエット ト長調 (バッハ)		
	G	メヌエット ト長調 (バッハ)		
	H	別れの曲 (ショパン)		

4月	A	「四季」より春（ヴィヴァルディ） ことりのうた（芥川也寸志）		
	B	なし		
	D	ラデッキー行進曲（ヨハン・シュトラウスⅡ）		
	E	年長：きらきら星変奏曲	年中：フルートとハーブのための協奏曲	年少：音楽の冗談 K.522 第1楽章
	F	春の歌（メンデルスゾーン）		
	H	ポロネーズ第3番（ショパン）		
5月	A	メヌエット（バッハ） おつかいありさん（團伊玖磨）		
	B	美しきロスマリン（クライスラー） クラリネットポルカ（ポーランド民謡） ことりのうた（芥川也寸志）		
	D	皇帝円舞曲（ヨハン・シュトラウスⅡ）		
	E	年長：アイネ・クライネ・ナハトムジーク	年中：きらきら星変奏曲	年少：歌劇「魔笛」序曲
	F	おもちゃの兵隊（イエッセル）		
	H	アンダンテ・カンタービレ（チャイコフスキー）		
6月	A	シバの女王の入城（ヘンデル） シャボン玉（中山晋平）		
	B	金平糖の精の踊り（チャイコフスキー） ガヴォット（ゴセック） シャボン玉（中山晋平） ユーモレスク（ドヴォルザーク）		
	D	白鳥（サン＝サーンス）		
	E	年長：幻想曲 ハ短調	年中：歌劇「フィガロの結婚」序曲	年少：ピアノソナタ KV.545 第1楽章
	F	シンコペーテッドクロック（アンダーソン）		
	H	愉快的鍛冶屋（ヘンデル）		

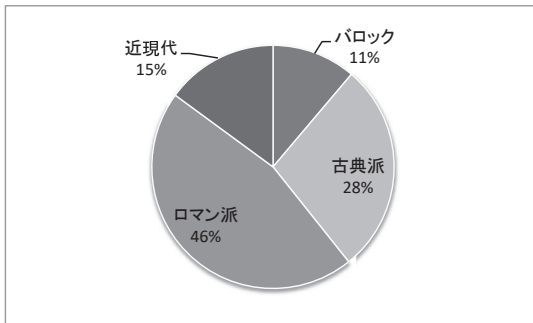


図3 鑑賞曲の作曲時代別の割合

雰囲気のある曲を取り入れ、様々な曲調に触れさせていた。また、毎月ではないが季節や記念日に合った選曲をしている園が多く、生活と結びついた鑑賞をしていることがわかった。

3) 音楽鑑賞をする目的

アンケートでは1. 音楽の楽しさを知って欲しいため、2. 幼児にいろいろなクラシック曲を知ってもらうため、3. いろいろな音色や音楽に興味を持って欲しいため、4. 美しい音を聴いて欲しい、5. リラックスして欲しい、6. 集中して欲しい、7. 静かにして欲しい、8. その他（記述）の中から、当

てはまるものを選択してもらった。結果は表2に示した。

どの園も、「4. 美しい音を聴いて欲しい」を共通して選択していた。次いで、楽しさ（7園）、興味（7園）、集中（7園）、教養（6園）が選ばれていた。多くの選択肢に丸をした園が多かったが、「8. その他」の記入から、それぞれの園の音楽鑑賞に関する考え方や、求めることがわかった。B園「良い音楽をたくさん聞かせたい」、D園「音楽とは何か、を感じる『感情』が育って欲しい」というのは感受の力を育てることを目的としている。

F園「友達と音楽を共有することの心地よさを経験させたい」は、感受だけでなく表現する力を育む要素にもなる。鑑賞は音楽と個人の繋がりであるが、共有することで、音楽と自分と友達の繋がりととなり、そこには音楽の印象や感動を表す動作や言葉が存在するだろう。H園「遊び力、表現力を高める一助としたいため」というのも、感受するだけでなく、表現する力を育成することを目的としている。

また、C、F、Gの3園が「心を落ち着かせる」ということをあげており、C、F園は鑑賞後の活動のことは見据えている。

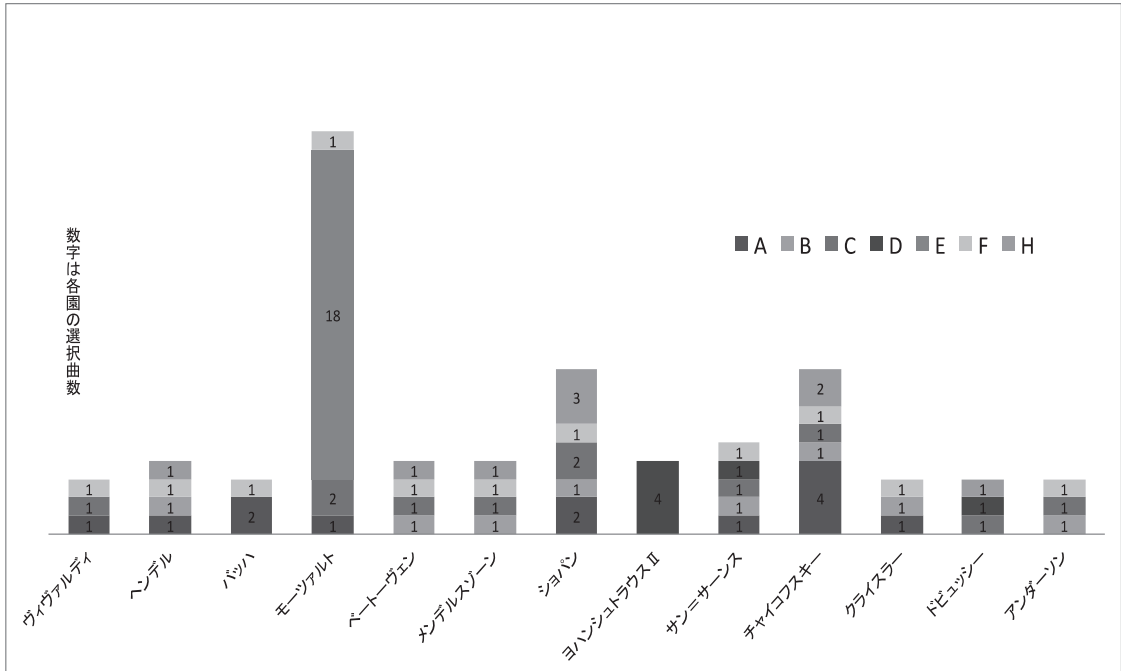


図4 作曲家別選択曲数 (上位13名)

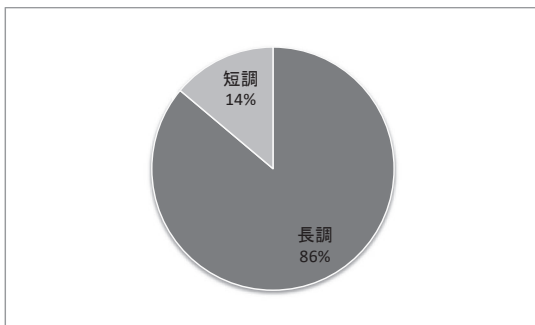


図5 鑑賞曲の長調と短調の割合

4) 選曲の際に考えること

アンケートでは、1. 季節感、2. 演奏時間、3. 明るい雰囲気、4. 幼児がイメージしやすいものがテーマになっている曲、5. 小学校音楽科との連携(鑑賞の共通教材から選ぶなど) 6. 有名な曲、7. リズム感が良い曲、8. 落ち着いた曲、9. 楽器編成、10. 前の鑑賞曲との兼ね合い(先月は交響曲だったから今月は独奏曲にしようなど)、11. 保育者の好きな曲、12. その他(記述)から選択してもらった。結果は表3に示した。

「6. 有名な曲」を選んでいる園が多数であった(8園)。有名な曲は、今後もあらゆる場面で聴く可能性が高く、幼児期の記憶が知識となり今後も役立つ可能性が高い。

次いで、「1. 季節感」を考えている園が多い(6園)。設問1「鑑賞曲目」の結果からも、4月や5月にヴィヴァルディの「春」、メンデルスゾーンの「春の歌」、6月の時の記念日に合わせてアンダーソンの「シンコペーテッドクロック」、12月にチャイコフスキーの「くるみ割り人形」など季節感を感じる選曲が多く見られる。肌や景色で感じる季節を、音楽からも感じることができ、幼児の感性に働きかけることが大いに期待できる。

次いで、「2. 演奏時間」は5園が上げている。制限時間内の選曲をする園もあれば、曲が長ければフェードアウトするという園もある。演奏時間は選曲を制限してしまうので、曲によってはフェードアウトするのも良いのかもしれない。

「4. 幼児がイメージしやすいものがテーマになっている」も5園が選択している。設問1からも、題名のついた曲が多いことがわかる。小鳥、子

表2 音楽鑑賞をする目的

園 選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8
A	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	
B	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		ゲームや YouTube が普及する中、家庭でクラシックを聴く機会は少ない。良い音楽をたくさん聴いて欲しいという創立当初からの思い
C	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		気持ちを落ち着かせて設定保育に入るため
D								音楽とは何か、を感じる「感情」が育って欲しい
E				<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	幼児期にモーツァルトを聴くことは情操教育に良いという園長の方針
F	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	1.友達と音楽を共有することの心地よさを経験させたい 2.曲を覚えていなくても良い。大きくなってふと聞き直す気持ちが起こって欲しい 1日の始まりに聴いて、気持ちを落ち着けてから活動に取り組むため 1日の終わりに聴き、気持ちよく帰りの挨拶ができ、明日につなげるため
G	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	情操教育に役立てるため。静かに集中して音楽を聴くことで、心の安らぎを得るため
H	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		遊び力、表現力を高める一助としたいため
I	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	

選択肢 1. 音楽の楽しさを知ってほしい、2. 色々なクラシック曲を知ってもらうため、3. 色々な音色や音楽に興味を持ってほしい、4. 美しい音を聞いてほしい、5. リラックスしてほしい、6. 集中してほしい、7. 静かにしてほしい、8. その他

表3 選曲の際考えること

園 選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>					<input type="radio"/>	
B		<input type="radio"/>				<input type="radio"/>		<input type="radio"/>				
C	<input type="radio"/>			<input type="radio"/>						<input type="radio"/>		
D	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>						
E						<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				
F	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		馴染みのある曲、これからも聞いて欲しい曲、聴きやすい曲、情景が浮かびやすい曲
G	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>	
H	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>			<input type="radio"/>			
I		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>				

選択肢 1. 季節感、2. 演奏時間、3. 明るい雰囲気曲、4. 幼児がイメージしやすいものがテーマになっている曲、5. 小学校音楽科との連携（鑑賞の共通教材から選ぶなど）6. 有名な曲、7. リズム感が良い曲、8. 落ち着いた曲、9. 楽器編成、10. 前の鑑賞曲との兼ね合い、11. 保育者の好きな曲、12. その他

犬、白鳥、時計、雨、おもちゃ、列車などは幼児のイメージしやすいテーマである。

また、「8. 落ち着いた曲」は5園が選択し、「3. 明るい雰囲気曲」(2園)より多く選ばれていた。設問3「音楽鑑賞をする目的」の結果から、心を落ち着かせるために鑑賞している園があることがわかっており、設問1の結果からも、極端にテンポが速い曲や劇的なものは見当たらなかった。

「9. 楽器編成」と「10. 前の鑑賞曲との兼ね合い」は2園のみが選択していたが、設問1の結果からも、園によっては楽器編成や作曲家に偏りが見られた。選曲者の好みなども反映されと考えられ、選曲の方法(担当1人が行うのか、全体会議などで多数の意見で決めるのか)によっても演奏形態、時代、曲想などのバランスは変わるだろう。印象の似た曲目が並ぶより、色々な音色やスタイルを体験させることで、幼児に気づきや驚きをもたらすのではないだろうか。楽器編成や作曲家の違いを持たせることが必要である。

5) 鑑賞中の園児の様子

アンケートでは、1. 静かに座って聞いている、2. ざわざわしている 3. 無表情になっている(集中しているのかもしれない)、4. 好きな作業をしながら聞いている(お絵かき、別の遊びなど)、5. 体で

リズムを取っている、6. 踊っている、7. 寝ている、8. その他から選択してもらった。結果は表4に示した。

回答のあった全ての園が、静かに座って音楽を聴かせていると回答している。鑑賞という行動は、受動的な姿勢をとり、自己自身から出る雑音をなくすることが基本である¹²⁾ため、子どもたちは既に鑑賞の基本姿勢をとることができる。F園「習慣になり、抵抗なく取り組んでいる」、H園「一斉放送で案内すると、自然と音楽を聴く体制になっている。(生活の一部)」、E園「音楽がかかるとそれを合図に素早く支度をし、立腰を始める」とあるように、日常的に鑑賞の時間をとることで、園児たちは「音楽鑑賞＝静かにする」のが当たり前として、音楽に耳を傾けるようになるようだ。小学校以降の鑑賞にもスムーズに対応できると考えられる。また、特に姿勢に気をつけさせる園もあり、C、E、G園は「立腰」の姿勢で聞いている。「立腰」とは、腰骨を立てる姿勢を常時保つことで、「心を立てようとしたら、まず身を起こせ」という理念のもと、森信三氏が提唱した教育法である。¹³⁾姿勢を正したり、目を閉じたりして音楽を聴くことは集中や落ち着きにつながるだろう。「4. 好きな作業をしながら聞いている」はA園のみで、幼児にとってリラックスできる時間として扱っている

表4 鑑賞中の園児の様子

選択肢 園	1	2	3	4	5	6	7	8
A	○			○	○			
B	○				○			目を閉じて聴くクラスもある。
C	○		○		○			立腰の姿勢をしている。
E	○							立腰教育を兼ねている。音楽がかかるとそれを合図に素早く支度をし、立腰を始める。
F	○							習慣になり、抵抗なく取り組んでいる。音楽を共有する心地よさを感じている。
G	○		○					立腰教育を兼ねている。
H	○				○			一斉放送で案内すると、自然と音楽を聴く体制になっている。(生活の一部)
I	○							

選択肢 1. 静かに座って聞いている、2. ざわざわしている 3. 無表情になっている、4. 好きな作業をしながら聞いている、5. 体でリズムを取っている、6. 踊っている、7. 寝ている、8. その他

と考えられる。

「5. 体でリズムをとっている」は4園が選択している。曲調によっては大人でも体が動いてしまうくらいなので、静かに集中しながらも、音楽に対して自然な反応をしていると言えるだろう。また、音楽に合わせた動きをするという行動も、表現する力の要素になるのではないだろうか。

6) 鑑賞中の保育者の様子

アンケートでは、1. 静かに座って聞いている、2. 作業をしながら聞いている（連絡帳の整理など）、3. 体でリズムを取っている、4. 踊っている、5. その他から選択してもらった。

ほとんどの園が、「1. 静かに座って聞いている。」を選択しており、B、H園は園児と一緒に聴くことを大切にしているとの記載があった。立腰教育を行う3園の内2園は、鑑賞中に園児の姿勢の指導やスキンシップをしている。

幼児と一緒に聞くことや空間を共にすることにより繋がりが生まれ、感じたことや感動を共有できる。また、保育者自身も音楽を楽しむことができる。

7) 鑑賞後すぐの園児の様子

アンケートでは、1. まだ音楽に浸っている（曲を口ずさむなど。）2. すぐ切り換えて、次の行動をする3. その他（記述）から選択してもらった。

ほとんどの園が、園児の反応がそれぞれであることを示した。音楽鑑賞は個人的な音楽との関わりであるため、その後の反応もそれぞれである。立腰教育を兼ねているE園は「次の指示があるまで立腰の姿勢で待つ」という記述があり、立腰しながら音楽の余韻を感じているのかもしれない。また、H園は、「曲を口ずさむなどしながら心は整理され、次の行動へ切り替えている。」と記述があったが、他の園にもじっくりくるのではないだろうか。

8) 園児たちに鑑賞曲の説明をするか

アンケートでは、1. はい、2. いいえ、から選択してもらい、3. 「はい」の場合どの程度説明するか、をたずねた。結果は表5に示した。

幼児がイメージしやすいように言葉を選び説明

をする園（5園）と、説明はせずに音楽そのものを純粋に感じさせる園（4園）に分かれた。説明し、イメージを持って聴かせる園は、季節や曲のテーマとなるものの説明をし、幼児の想像の助けとなるような言葉がけをしている。幼児は題名からも理解することはできるが、保育者の言葉がけによって、自分のよく知っている「雨」や、可愛い動物の姿をより鮮明に思い描くことができる。さらに、季節やテーマを音楽の中に見つけようと能動的な聴き方ができるのではないかと考える。

一方、D園「音楽は説明するものでなく感じるもの」、H園「曲の細かい説明はせず、音楽に任せ聴くのみ」というように、音楽そのものをシャワーのように浴びせるというのも一つの聴かせ方である。個人的な音楽との関わりの中で、独自の想像を膨らませることができ、逆に頭を空っぽにすることもできる、幼児にとって自由な時間となる。それぞれの感じ方ができることで、想像の幅が広がる可能性がある。音楽の聴かせ方は、工夫の余地があるように思う。

9) 音楽鑑賞をして良かった点

①幼児にとって良かった点、②保育者にとって良かった点、をたずねたところ、どちらにも音楽的な利点だけでなく精神面や生活上の利点があげられた。結果は表6と表7に示した。

まず①では、幼児の音楽的な感性に関する成長があげられた。B園「聴く力」というのは、単に耳の良さだけではなく、音楽を聞いて様々な感情を持ち、自分も表現してみたいと思う力であると考えられる。F園「音楽を共有できる」、H園「遊びの展開」も表現する力の成長に関わると考えられる。C園「様々なジャンルを聴くことで想像力、表現力が豊かになった」とある通り、クラシック音楽や童謡など、幼児期に様々なジャンルに触れさせることも大切である。

それ以外の利点として、集中力や癒し、心の落ち着き（静と動のバランス）を得られることがあげられ、鑑賞を年少から続けることで、年長では半数以上がしっかりと音楽を聞いている（F園）という成長をあげた園もあった。また、立腰の姿勢

表5 園児たちに鑑賞曲の説明をするか

選択肢 園	3		
	1	2	3
A	<input type="radio"/>		季節の説明…(春) 暖かい明るい雰囲気を感させ、お花がきれいね、○○の花が○色ですね。(秋) 秋の訪れの説明(冬) 行事の楽しさを伝えたり、寒さに負けない声がけをする。 曲の雰囲気…元気、流れるような曲など。曲名を伝える。
B		<input type="radio"/>	
C	<input type="radio"/>		ex「雨だれ」…曲を聴く前に、シトシトと降る雨か、ザーザーと降る雨なのか、どのような雨の様子かイメージしながら聴くように伝えた。鑑賞後、美しい島の景色の中に静かに美しく降っていた雨が、途中から暗い雲に覆われて激しい雨になり、最後は雨も穏やかになり、虹が見えるような綺麗な空になりました等、話した。
D		<input type="radio"/>	(←音楽は説明するものでなく感じるものという考えのもと)
E		<input type="radio"/>	以前は時間がある時は、題名、CDに添付している冊子を元に情景を伝えていた。
F	<input type="radio"/>		情景を思い浮かばせる。作曲家名を伝え、作曲家の生涯や曲ができるエピソードなどを話すことがある。ex「シンコペーテッドクロック」：6月の時の記念日、振り子を感じさせる音、シンコペーションのリズムを使用していること、目覚ましのベルの音、ウッドブロックが使用されていること。 「口笛吹きと犬」：散歩の楽しさ、心弾む気持ち、きっと今日はいい天気、口笛や犬の鳴き声は情景を思い浮かばせやすい。 「おもちゃの兵隊」：列を組んで足を上げ行進する兵隊の様子を話す。 「きらきら星変奏曲」：子供達が聞きなれたメロディーの変奏で聴きやすいことや、星空や星の様子を話す。
G		<input type="radio"/>	
H	<input type="radio"/>		鑑賞の前後に、曲名と作曲家をみんなで言う。曲の細かい説明はせず、音楽に任せ聴くのみ。
I	<input type="radio"/>		先生にもよるが、先生の知っていること(○○のCMで流れていたね、など)

選択肢 1. はい、2. いいえ、3. 「はい」の場合どの程度説明するか

が良くなったという意見や、音楽によって自分の気持ちや行動を切り替えることができるという点もあげられた。今まで知らなかった曲に触れることが知識や自信となり、自己肯定感につながっていくという意見もあった。音楽鑑賞によって、音感的な感性だけでなく様々な成長が感じられることがわかった。

②では、保育者の音楽的な感性の成長があげられた。D園「音楽に入り易い感情が育っている」、F園「子供と音楽の楽しさを共有し、感性を磨くことができる」のように、子供達との日常的な音

楽鑑賞は、保育者の感性にも働きかけることがわかった。また、教養や説明するための表現を身につけられる点があげられた。A園「クラシックにも興味を示すようになった」、F園「広い教養を身につけられる。音楽について幅を広げる」、のように、保育者自身が選曲や勉強のために様々な作品に触れることで興味、知識を持つようになると考えられる。C園「子供達に曲のイメージが広がるよう、わかりやすく伝えるための言葉や表現などを考えるので、勉強になっている」とあるように、音楽鑑賞は保育者が曲について十分に理解し、

表6 音楽鑑賞の時間をとって良かった点（幼児編）

園	回答
A	鑑賞～朝の会へのルーティーンができています。泣いて登園してきた子も音楽で癒される。
B	聴く力が育っている。
C	正座（立腰）の姿勢が良くなった。様々なジャンルを聴くことで想像力、表現力が豊かになった。
D	音楽とは何か、を感じる「感情」が育っている。
E	音楽を合図に自分の気持ち、行動を切り替えることができる。
F	1.心地よく聴けること。 2.落ち着けること。 3.少しの時間集中できること。 4.音楽を共有できること。 5.年長児では半数以上がしっかりと聞いていること。
G	集中力が身につく。心が落ち着きゆったりできる。
H	自然と静と動のバランスが取れる。遊びの展開に良い影響があると思う。「聞いたことがある」が知識、自己肯定感につながる。音楽的な感性が育つ。
I	静かに心を落ち着かせる時間があることで集中できるようになる。

表7 音楽鑑賞の時間をとって良かった点（保育者編）

園	回答
A	皆静かに落ち着き、主活動に移りやすくなった。クラシックにも興味を示すようになった。
B	柔軟体操も取り入れ、保育者自身もリラックスして1日を始められる。
C	子供達に曲のイメージが広がるよう、わかりやすく伝えるための言葉や表現などを考えるので、勉強になっている。
D	音楽に入り易い感情が育っている。
E	声を出さなくても、音楽を合図に子供たち自身が次に何をすべきなのか考えるので、指導が楽になっている。
F	子供と音楽の楽しさを共有し、感性を磨くことができる 広い教養を身につけられる 音楽について幅を広げる。
G	子供が落ち着くので、保育がしやすくなる。
H	△深い知識や効果は求めておらず、1日に1回みんなでクラシックを聞こうというだけ。

感性を働かせることでより充実したものとなる。

また、幼児が音楽に癒され落ち着き、音楽を合図に自分で考えて動けることにより、保育がしやすくなったという意見もあげられた。

10) 音楽鑑賞についての悩み、改善したい点

音楽鑑賞における悩みや改善したい点を、①園児に関する悩み、②選曲に関する悩み、③保育者について、④鑑賞の頻度について、⑤その他、に分けてたずねた。あまりたくさん回答は得られず、現状に問題がないと考える園が多く、そもそ

も音楽の深い知識や効果は求めていないという園もあった。

①については、「(鑑賞を朝に行っているため)遅刻すると聞けない。遅刻者は大体決まっている」、 「クラシックに興味や関心を持たせる導入が難しい。」という意見が見られた。家庭環境にもよるが、幼児がクラシック音楽に触れる機会はそう多くないだろう。園で鑑賞の時間を取り、普段聞かない音楽を聴かせるだけでも良いことだと思うが、各園はさらに興味や関心を持たせようと努力しているのがわかる。

②については「音楽系の保育士が選曲し、統括者が確認するが、毎年同じような楽曲を選んでいる」、「子供の聴きやすい曲、偏りがなければ等悩む。」という意見があった。選曲する側も知っている曲に限りがあるため、鑑賞曲は有名な曲に偏ってしまう。また、子供の立場に立って心地よく、楽しく聞けるか検討することも大切である。

③については「保育者が曲について造詣を深め、関心を持つ必要がある。」、「音楽だけでなく色々なことにイメージを広げ、子供たちに伝えることの資質を育てる大切さを学ぶ必要がある」、「保育者自身がもっとクラシックに興味をもつようになると良い」という意見があった。選曲するための知識、保育者自身の感性のさらなる鍛錬が求められていることがわかった。

④については「毎日実践することに意味があるが、行事などに追われてしまい、短い時間になってしまう時もある」という意見が見られた。鑑賞は時間がない中、無理矢理詰め込む必要はない。子供にも保育者にもストレスがないように行われる

べきである。

11) アウトリーチコンサートなど、生演奏に触れる機会はあるか

アンケートでは、1. 幼児の感性を育むのに良い。是非取り入れたい（現在行っていない）、2. すでに行なっている。（頻度も記入）、3. たくさんの園行事があるので、忙しくて取り入れるのは難しい、4. 演奏家を招いてはいないが、先生の演奏を聴かせている、5. その他（記述）から選択してもらった。結果は表8に示した。

日常的に音楽鑑賞をしても、演奏家の生演奏に触れさせている園は9園中4園で、それほど多くないことがわかった。幼児の音楽的な感性を育むために取り入れたいと思いつつも、行事を増やせない、予算の都合がつかない等の理由がある。これはおそらく日本全国の様々な園が抱えている悩みであろう。生演奏に勝る感動を得るのは難しいだろうが、音楽鑑賞はどんな園でも始めやすく、芸術教育の第1歩に適しているだろう。設問5「鑑

表8 アウトリーチコンサートについて

園	1	2	(頻度)	3	4	5	
A		○	年1回				
B	○						
C		○	4、5年に1度		○		
D		○	月1回				毎月の誕生日会でプロの演奏家の演奏会を聴く
E						○	以前は行なっていたが今はしていない。
F	○			○	○		予算面での悩み。以前は行なっていたが費用が高額で続かなかった。
G		○	年1.2回				
H	○						
I						○	卒園児や保護者が演奏してくれたことがある。

選択肢 1. 幼児の感性を育むのに良い。是非取り入れたい（現在行っていない）、2. すでに行なっている。（頻度も記入）、3. たくさんの園行事があるので、忙しくて取り入れるのは難しい、4. 演奏家を招いてはいないが、先生の演奏を聴かせている、5. その他

賞中の園児の様子」からもわかるように、音楽鑑賞に慣れた幼児たちは聴き方を知っているため、今後コンサートを聴く機会に恵まれた時、音楽にスムーズに入っていけることが予想できる。

Ⅲ. まとめと課題

今回のアンケート調査から、日常的にクラシック音楽鑑賞を実施している9つの就学前施設では、「音楽の美しさを感じる」ことに加え、楽しく、生活とも関わっている鑑賞、すなわち表現領域のねらいに合った「鑑賞」をしていることがわかった。鑑賞活動は音楽を感受する力の育成がメインになると考えられがちである。しかしアンケートの回答から、「友達や保育者と音楽の楽しさを共有することや、「遊びの発展」、(広い意味での)「聴く力」の成長など、表現する力の要素も育てることが明らかになった。幼児期の音楽鑑賞は、園で友達や保育者と共に行うことで、感受と表現する力を育み、感受性を育てると言えるだろう。

また、日常的な音楽鑑賞は幼児の音楽的な感性に働きかけるだけでなく、集中力や心の落ち着き、鑑賞の姿勢の習慣化、知識を得られること、そして保育者の知識や表現力を伸ばすきっかけにもなる面において有用であることがわかった。そして、今後更に幼児の感性に働きかける鑑賞を行うために何が必要かを考えた時、選曲と聴かせ方に関して改善できる点が浮かび上がった。

まず選曲について偏りを解消するため、バロック、古典派、ロマン派、近現代の時代区分からバランスよく選曲することや、演奏形態や楽器編成を考えて選ぶことを提案したい。各楽器の協奏曲や独奏曲、交響曲、古楽器など様々な音色とスタイルに触れることで幼児の驚きや感動体験が増える。また、長調の鑑賞曲が多いため、時には幼児の心に負担を与えない程度の暗さの短調の曲を入れるのも良いだろうと考える。その際、過度の興奮や恐怖、重苦しさを感じさせるものは避け、美しさを重視するのが良いと考える(例えば、バッハのシャコンヌ、モーツァルトのピアノ協奏曲第23番より第2楽章、ベートーヴェンのピアノソナタ「テンペスト」、メンデルスゾーンのヴァイオリ

ン協奏曲、チャイコフスキーの「白鳥の湖」より「情景」など)。

そして聴かせ方に関して、幼児が曲のイメージをしやすいように言葉を選び説明をする園と、説明はせずに音楽そのものを純粹に感じさせる園に別れたが、それぞれの考え方や良さがあった。そこで、より幼児の想像を活発にさせるため、音楽の聴かせ方を考えたいと思う。聴かせ方は、幼児の音楽鑑賞の経験の多さや、発達の度合いにも留意する必要があるだろう。入園したばかりの経験の浅い年少の幼児には、保育者によるわかりやすい導きが必要であると考えられ、年長の幼児には、詳しくすぎる説明は想像の幅を狭めてしまうのではないかということが考えられる。そこで、例えば年長の幼児たちが1ヶ月間同じ曲を鑑賞する場合、月の始めの何回かは説明なしに鑑賞曲を聞かせて、幼児に自由な反応をしてもらって聴かせ方を提案したい。「昨日は〇〇な曲だと思ったけど、今日は△△だと思った。」というような、幼児の自由な発想があるのではないだろうか。それらを友達や保育者と共有し、また共感を得られた時、幼児の心の中に楽しさや喜び、「表現したい」という気持ちが生まれるのではないだろうか。幼児たちが曲に慣れはじめた頃、「実はこのような曲でした。」と、題名やテーマを発表する。自分の想像と違った時の驚きや気づきなどもまた、幼児の中に新たな表現の引き出しを生むと考えられる。鑑賞曲の選曲方法や聴かせ方に関しては、今後の研究の課題としたい。また、本調査結果と考察は、9つの園に見られた特質から導き出されたことであるため、今後更に多くのデータを得て検討を重ねていく必要がある。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っている。生活や自然の中の音、みんなで歌う歌、親や保護者が歌いかけてくれる歌など、幼児の身近にあるものの中に「美」を見出すことや、感性の種を見つけることはもちろん大切である。それに加え、存在自体が感性である芸術やクラシック音楽のような、幼児にとって新しい刺激からの驚きや気づき、気づけたことへの喜びや達成感、もともと豊かな感性の持ち主である子どもの心に働きかけ、可能性を開くものだと考える。我々大人や保育者には、目に見え

就学前施設における、幼児の感性を育むクラシック音楽鑑賞

ない子どもの心の動きや成長を見逃さないためにも、感性豊かであることが求められる。

謝辞

本調査に協力いただいた就学前施設の先生方、査読者の方々に深く感謝いたします。

《引用文献》

- 1) 文部科学省 2018「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編」p.49
- 2) 文部科学省 2018「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
- 3) 文部科学省 2018「幼稚園教育要領解説」p.225
- 4) 進藤務子 2010「心をはぐくむ音楽教育～第一章『創造性と幼児音楽教育』～」久留米親愛女学院短期大学研究紀要 第33号 pp.29-34
- 5) 戸川晃子 2013「クラシック音楽の生演奏が未就学児にあたえる影響についての一考察」神戸常盤大学紀要 第6号 pp.35-47
- 6) 岩口摂子 2011「幼児における音楽と感情との関連（3）～日本と中国の幼児の、音楽における感情の理解について～」相愛大学人間発達学研究 2巻 pp.27-36
石井信生 2004「保育園児の音楽享受における情動的意味についての実験的研究～表情画より成る評定尺度の構成とその使用結果をとおして～」2004 広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要 第16号 pp.1-12
山崎貴世 1997「幼児における音楽の情動的意味の表情画尺度による測定」京都大学教育学部卒業論文 pp.7-8
- 7) 久保田慶一 2019「新しい音楽鑑賞：知識から体験へ」水曜社
- 8) 西島千尋 2010「クラシック音楽はなぜ＜鑑賞＞されるのか」新曜社 pp.14-15
- 9) 鈴木裕子 2009「幼児の感性を具体化する試み—幼児期の感性尺度の開発を手がかりとして—」保育学研究 第

47巻2号 pp.28-38

- 10) 赤木公子 2010「幼児期の感性を育むカリキュラム開発」近畿大学豊岡短期大学論集 第8号 pp.43-52
- 11) 文部科学省 2018「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」
- 12) 梅本暁夫 1999「子どもと音楽」東京大学出版会
- 13) 寺田一清 1995「新版 立腰教育入門」新風書房

《参考文献》

- ・文部科学省 2018「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編
- ・文部科学省 2018「幼稚園教育要領」
- ・文部科学省 2018「保育所保育指針」
- ・文部科学省 2018「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
- ・文部科学省 2018「幼稚園教育要領解説」
- ・進藤務子 2010「心をはぐくむ音楽教育～第一章『創造性と幼児音楽教育』～」久留米親愛女学院短期大学研究紀要 第33号
- ・進藤務子 2012「心をはぐくむ音楽教育～第二章『子供の感性と音楽の精神世界』～」久留米親愛女学院短期大学研究紀要 第35号
- ・岩口摂子 2011「幼児における音楽と感情との関連（3）～日本と中国の幼児の、音楽における感情の理解について～」相愛大学人間発達学研究 2巻
- ・久保田慶一 2019「新しい音楽鑑賞：知識から体験へ」水曜社
- ・西島千尋 2010「クラシック音楽はなぜ＜鑑賞＞されるのか」新曜社
- ・鈴木裕子 2009「幼児の感性を具体化する試み—幼児期の感性尺度の開発を手がかりとして—」保育学研究 第47巻2号
- ・梅本暁夫 1999「子どもと音楽」東京大学出版会
- ・小笠原文 2015「乳幼児の美的経験～『芸術の教育的根源について』からの考察～」こども・子育て支援研究センター年報 第4号・第5号合併号